

## 副会長就任のご挨拶



日本精神病院協会副会長

津久江一郎

8つに分かれた。それがある時は東と西に、日本海側と太平洋側に群れ、離合集散を繰り返した。自薦他薦さまざま、揣摩臆測、流言蜚語が飛び交い、日本中を駆け巡った。

正論あり、異論あり、奇策を弄し、奇弁すらまことしやかに流れ、自称他称のボスたちが暗躍した。

..... 未曾有の

### シュトルム ウント ドラング

こうしたなか、自然の摂理というか、嵐がおさまり、必然かあるいは偶然の帰納として、勇気ある賢者らによる選択がなされ、会長に改革路線が選ばれた。結果が正しかったかどうかは今後の評価にゆだねるしかあるまい。

こうして日精協のルネッサンスは新しきミレニアムに向け、第一歩を踏み出すことになった。

偶然の選択として選ばれたものとして、“グッドチョイス”と呼ばれるためには、皆と一丸になって事にあたるしかあるまい。

..... 変革と飛躍

日精協の夜明けが来て、これが精神医療の革新につながることを信じ、執行部の一人としてそのための努力を惜しまないことを、強く、固く、決心する。

いずれにしろ、昨年、創立50周年を迎えたわれわれの日本精神病院協会には、課題が山積みしている。

さて、今回の医療費改定は、医療のあるべき姿が論じられることなく、財政主導のみで進められたといわざるを得ない。さらに、今、社会保障制度はそのもののあり方が論議され、抜本改正されようとしている。

21世紀に向けた社会保障制度の改革論議は、既得権益に基づく本質からかけ離れた論議に終始し、国民の幸せを願い、そのコンセンサスを得るには程遠い状態にある。

50周年を機に、今こそわれわれは、過去を振り返ることなく、未来に向けて国民的視野に立ち、大きく展望を開くべきである。こうした激動のときこそ、全員の力を結集し、総力を挙げて事にあたるべきだと思う。

今後予想される介護保険制度施行後の混乱や、従来の医療・福祉との関わりを調整・整理し、精神保健医療福祉分野の守備範囲を新しい観点から見直し、国民の信頼する安定した精神保健福祉の世界の創造を目指していこうではありませんか。

日医の傘の下に、日精協の意見がややもすると軽視されているのではないかという危惧さえある。

自分たちの意見を日医に厚生省に政治家に国民にどう投げかけていくのか、ストレートに伝わる方法を模索していきたい。

コップの中の争いを止め、日精協の未来に向けて、精神医療に燭光を見出すべく、ひたすら邁進していく覚悟です。

妄言多謝